

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ（エレミヤ31:21）

人になれ 奉仕せよ

聖句：父と母を敬いなさい（エフェソの信徒への手紙 6:2）

保育目標：0歳児	・先生と安心して過ごす中で、園生活に慣れていく。
1歳児	・安心して、保育者と好きなものを見つけて遊ぶ。
2歳児	・周りの大人に十分に受け入れられて、思いを表現する。
3歳児	・友だちや先生と好きなことを見つけて遊ぶ。
4歳児	・感じて考えて自分の思いをもって生活する。恵みを喜び、神さまに感謝する。
5歳児	・自分のやり方で動き、様々なことに興味をもつ。恵みを喜び、神さまに感謝する。

園庭では緑が輝き、こいのぼりが元気よく泳いでいます。

入園したばかりの子どもたち、そして進級して新しい人との出会いがあった子どもたち。どの子どもたちにも色々な「初めて」の経験があったと思います。子どもたち同士の中で、子どもと保育者の間で、時には生き物との間で、様々な物語が織りなされています。嬉しい・楽しい・寂しい・悔しいといった気持ちと向き合う時間が沢山あったことでしょう。

年中のT君に誘われて庭で一緒にダンゴムシ探しをしました。最近になりT君のダンゴムシへの興味が強くなったのか、小さいダンゴムシでは満足できない様子です。まだダンゴムシを触る事は出来ないのですが「大きなダンゴムシ、みつけたい」と歩き回りました。同じように地面と向き合っている年長さんには「どこに、大きなダンゴムシいるの？」と聞き、「植木鉢の下、みてみたら？」「木の根っこを掘ってみて」等と教えてもらい、私の腕を引っ張りながら急ぎ足で向かうT君でした。けれどその日は見つけることが出来ませんでした。次の日も誘われたのですが、前日と違いT君は「植木鉢動かしてみよう」「山の奥までいくよ」と積極的にリードしてくれました。前日の経験が影響していると思いました。そして、プランターの下から大きなダンゴムシを発見！「先生、これに入れて！」と持っていたカップに入れて、大事そうに見つめています。そこへ年少組のSちゃんがやってきてカップを覗き込みました。Sちゃんはダンゴムシを手のひらにのせて、歩くダンゴムシの様子を愛おしそうに見つめ、ニコニコしていました。そして独り言のように「かわいいなあ。だんごむしちゃん、かわいいなあ」と繰り返しつぶやいています。Sちゃんのその姿があまりに可愛くて、「私はSちゃんの方が可愛いと思っちゃう」と言うと、「Sちゃん（自分の事）はダンゴムシちゃんの方が可愛いと思う」と真剣な表情で私に答えました。そしてまた寄り目になるほどダンゴムシの動きを目で追い続けながら「くすぐったい。おもしろい！」とつぶやいています。その様子をじっと見つめていたT君は私と目が合うと「どちらも可愛いんだよ」と言いました。それを聞いてSちゃんは「うふふ」と嬉しそうに笑いました。目の前にいる小さな女の子を初めて「小さい」と感じたのか、または小さいものとして自分が歩んできた「年少時代の経験」がT君の言葉に繋がったのだと思います。「言葉」はあくまでまでも表面的なものです。セレクトされた単語ではなく、込められた気持ちや感情が相手に伝わるのですね。T君のまっすぐな一言がSちゃんと私の心をくすぐったいような、ほんわりした、何とも心地よい気持ちにさせてくれました。そして「あんなにあどけなかったT君がずいぶん大きくなったんだな～」と嬉しくなりました。（ちなみに、この後T君はSちゃんの姿に感化されて、なんとダンゴムシを手のひらにのせ、歩かせることが出来たのです！！このエピソードにもドラマがありましたが、またの機会に！！）

記憶に残るか残らないか、大きな経験か些細な経験か・・・という概念ではなく、日々経験する「今日の初めて」の積み重なりが、成長していくための大切な土台を造っているように思います。「今日の初めて」には喜びだけではなく苦い経験もあります。だからこそ、こども達の「今」を大事に、「ありのまま」の子どもの姿や心の動きをしっかりと見つめ、受けとめていきたいと思います。子どもたちの笑顔や成長は大人に喜びを与えてくれますね。

小さな「今日の初めて」を共に見つけ、楽しめる者でありたいと思います。

主任 藤肥礼子